



藤里森林生態系  
保全センター  
令和元年11月20日  
No.90

## 谷藤所長の四方山話 ー白神山地もカメムシも冬支度ー

んっ、なんか周りが白っぽいぞ？

まだ11月の上旬というのに藤里町には今朝とうとう初霜が降りたようで、稲刈り後の田んぼや荒れ地のススキの葉まですっかり真っ白。街の家々の周りにはまだ葉が残っているのに、山から降りてくる空気がもう冬を連れてきているようです。

そういえば平野部では稲刈り後の田んぼは少し時間がたつと“ひこばえ”が出て緑色になるはずなのに、藤里の“ひこばえ”は丈が短いせいかあまり目立たず、平野部の田んぼに初霜が降ったときより一層白くなって見えます。藤里の気温が低いせいかとは思いますが…。

「木々の“ひこばえ”は春なのに稲は秋か」などと思いながら藤里駒ヶ岳を見ると、頂上周辺も初雪でうっすら白くなっています。田苗代湿原を経て藤里駒ヶ岳へと続く登山道は、例年より早く霜月の初日から西目屋二ツ井線が通行止めとなった関係で長い冬休みに入っているのです。初雪を踏んだ人はそう多くはないでしょう。

さて、当センターでも岳岱自然観察教育林内の多目的展示施設をはじめとした施設の冬囲いを行い、つい先日すべての施設で冬支度を済ませました。

春に冬囲いを外すときはどの管理棟の周辺にも昆虫の姿が見当たらなかったのに、冬囲いに向かった各管理棟には「小屋の主」のごとく沢山のカメムシとテントウムシが待ち構えていて、職員を出迎えてくれました。昆虫たちも我々人間と同じで寒くなれば暖かいところが恋しくなるのか、雪の当たらないところにいたいのかよくわかりませんが、各管理棟が昆虫たちにとって最適な越冬場所として選ばれていることは間違いないでしょう。

また、相当の数のカメムシが当センターも良い越冬場所と認定してくれたようで、塗装したての外壁のにおいも気にせず、毎日建物の周りの隙間を物色しています。聞けば青リンゴのような良い匂いを出すカメムシもいるらしいのですが残念ながら今まで一度も嗅いだことがありませんし、当センターを越冬場所として選んでくれたカメムシもきつい匂いの方々と思われる。

これから寒さが増して活動が停止するまではカメムシに刺激を与えないよう、周囲に対する注意が必要です。



晩秋の田苗代湿原



巡視管理棟の冬囲い作業



『小屋の主』スコットカメムシとカメノコテントウ

## 藤里町の“まち自慢講座”開講



哺乳類調査や撮影された動物の紹介  
左上のサルの写真にどよめきが…

藤里町社会福祉協議会では、町内の様々な場所で様々な方を講師に町の魅力や自慢を再発見する“まち自慢講座”という活動が行われています。「藤里森林生態系保全センターの業務内容などについてご紹介いただけませんか？」という依頼を受け、8月8日（木）と8月28日（水）の2回、当センター研修棟で“まち自慢講座”を開講しました。

8日は4名、28日は13名の方が受講され、当センターでは白神山地の保全管理に携わっていること、中でも近年増加傾向にあるニホンジカ対策に頭を悩ませていること等々をお話ししました。また、センサーカメラで撮影した哺乳類の写真を紹介しながら、皆さんに「コレ見たことありますか？」などと質問すると、色々興味深い情報が得られました。例えばハクビシンはここ数年の哺乳類調査で撮影頻度が激増していますが、誰も実物を見たことがなく、農作物の被害も出ていないとのこと。それより畑ではサルの他にトウモロコシなどを食べるアナグマをよく見かけて、手を焼いている…という話は意外でした。

最後にセンター所蔵の昔の林業関連のアルバムをお見せすると、ご年配の皆さんは懐かしがって昔話に花が咲きました。「おお、“ガソリン”だ！」と指さしていた写真は粕毛川沿いの森林鉄道で、昔は森林鉄道をそう呼んでいたことを初めて知りました。講師役のはずが逆に様々なご教示をいただいた、とても有意義な時間でした。（有本）



モノクロ写真を眺めながら、センター周辺の当時の様子も教えていただきました

## 獨協大学生の岳岱ボランティア活動

9月8日（日）に獨協大学3年生25名が、エコツーリズムを生かした農村作りを考え学ぶために、岳岱自然観察教育林内でウッドチップ歩道を補修するボランティア活動を行いました。

学生方は駐車場脇でウッドチップを土嚢袋に詰め、体力の余っている学生は1人で3袋も担ぎながら木道前まで運び、センター職員や秋田白神ガイド協会の指導を受けながら補修を始めました。作業中は秋田弁や津軽弁の会話で盛り上がりながら作業をし、学生方の若い力によりきれいに整備されました。

最後に学生の方から「世界遺産の白神山地での貴重な体験をありがとうございました」とお礼の言葉をいただき、今後は自然の大切さを少しでも伝えていってあげたいと思いました。（山内）



まずウッドチップを土嚢袋に入れて・・・



補修箇所まで人力でひたすら運びます

## 植樹体験と自然観察会（秋田県二ツ井高校）

9月13日（金）に、二ツ井高校とNPO あきた白神の森倶楽部が行う植樹体験と自然観察会へ、センター職員も参加してきました。これは、二ツ井高校の白神プロジェクトの一環として行われていて、白神山地に最も近い高校である二ツ井高校が、世界自然遺産「白神山地」の魅力を広く伝えられる生徒を育成するためのプロジェクトなのだそうです。



遺産センターで自然観察前の事前学習



対向車が側溝にはまるトラブル発生！  
高校生の力であっという間に救出されました

に確認。生徒の皆さんはブナの大きさに驚きながら、スマホで写真を撮りまくっていました。近くに住みながら、白神山地に行ったことがほとんどない人は、地元では結構あることらしいです。生徒の皆さんがより多くの白神山地の魅力を感じてくれたらいいなと思いました。（小林）



土が硬く、女子の力で穴を開けるのは大変そう

まず午前には1年生、3年生と共に白神山地へ木を植える植樹体験を行いました。前日の雨によりどろどろになった林道や、ノイバラやタラノキなどの棘に四苦八苦しなから、生徒達は重いディブル(コンテナ苗専用の穴あけ器)で穴を開け秋田スギのコンテナ苗を、先生方はブナを植えました。

遺産センター藤里館で事前学習のあと、午後からは1年生と共に岳岱自然観察教育林での自然観察会です。まずは事前



ブナの土壌は柔らかく棒を簡単に刺すことができます

## 令和元年 最初の合同パトロール

9月28日(土)に合同パトロールを①小岳コース②藤里駒ヶ岳・田苗代コースの2コースに分かれ、2班合計24名で実施しました。当日は天候にも恵まれ、入山者へは「白神山地の入山マナー」のチラシを配り、動植物の保護やゴミの持ち帰り等の協力を求めました。

パトロールの結果、植物の採取や伐採、既設登山道を外れた踏み込み等は見られませんでした。登山道にはビンや缶といったゴミの廃棄等が見られました。

紅葉シーズンも終わりアクセス道は冬期閉鎖されましたが、来シーズンも巡視活動やマナーの啓発活動を継続し、白神山地の自然を守って行きたいと思えます。(山内)



小岳山頂周辺の残置ロープや鉄杭を回収



小岳山頂の記帳入れも回収しました



藤里駒ヶ岳旧道コースの急登



ヤマウルシが紅く染まった田苗代湿原



小岳コースの回収物



藤里駒ヶ岳コースの回収物

## 第3回森林講座 「黄葉の岳岱で森林セラピー」



ブナの大木をイメージして、  
両腕を空に伸ばしてストレッチ

第3回森林講座を白神コミュニケーションズと共催で、10月27日(日)に岳岱自然観察教育林で開催しました。ガイド(森林セラピスト)の八巻 枝美さんの案内で、自然豊かな白神の森(ブナの黄葉の中)で心と身体を癒し、参加者14名と共にリフレッシュしました。

講座の中で、森のアロマセラピーとして「クロモジ」と「タムシバ」の紹介があり、実際にクロモジの枝の匂いを嗅いだりクロモジ茶を飲んだりして、参加者からは心と体のケアができるなどの声も上がりました。

今回の講座で、改めて森の大切さを感じ、これからも森の中に入ったら「五感を研ぎ澄ませ」自然の素晴らしさを感じたいと思います。(山内)



黄葉の中で飲むクロモジ茶は格別！



ブナの実を手に、一何のタネでしょう？



ナメコ(食用)



タヌキノチャブクロ(食用)



ツリガネタケ(不食)

## オオハンゴンソウ駆除作業

おーはんごんそう？と首をかしげる方がいらっしゃるかもしれませんが、お盆休みの頃にニッ森に向かう途中、八森ぶなっコランドに向かう道路脇にびっしり咲き乱れる黄色い大きな花、たとえばピンとくるかもしれません。繁殖力が極めて旺盛な本種が世界遺産地域に侵入すれば、日当たりのよい溪流沿いや雪崩斜面等が真っ黄色に染



オオハンゴンソウ



こちらは在来種

ハンゴンソウ



文字通り“根こそぎ”掘り取ります

まってしまう、本来のブナ林生態系が攪乱される恐れがあります。環境省では『特定外来生物』に指定しており、栽培することはもちろん、生きた状態で移動させる事すら厳禁です。

粕毛川源流部に向かう大滝林道終点付近（世界遺産緩衝地域まで約1km）で蕾の状態のオオハングソウを数株見つけたため、駆除作業を実施しました。7月25日（木）に根株ごと掘り取り可燃ゴミ袋に入れて、固く口を縛って枯死するまでその場に置いておきました。

8月に一度袋の中を覗いたところ葉が青々としており、完全に枯れたのを確認できたのは9月18日でした。尋常ではない生命力のこの植物、大きくてきれいだからと花を摘んで持ち帰って花瓶に生ける・・・などという事は決してしないようお願いします。（有本）

## ホームページ（HP）をリニューアルしました

9月より、藤里森林生態系保全センターのHPをリニューアルしました。以前より写真を多く使い見やすいHPを目指しています。センターの最新情報はもちろん、本紙「白神通信」や「巡視日誌」の過去データや、いつも切り取られて使用されている題名背景の写真の裏話や解説なども載せているので、このページ右下のQRコードを読み取り、または『藤里森林生態系保全センター』で検索して是非一度ご覧下さい。（小林）

### ▼New！HP トップ画面



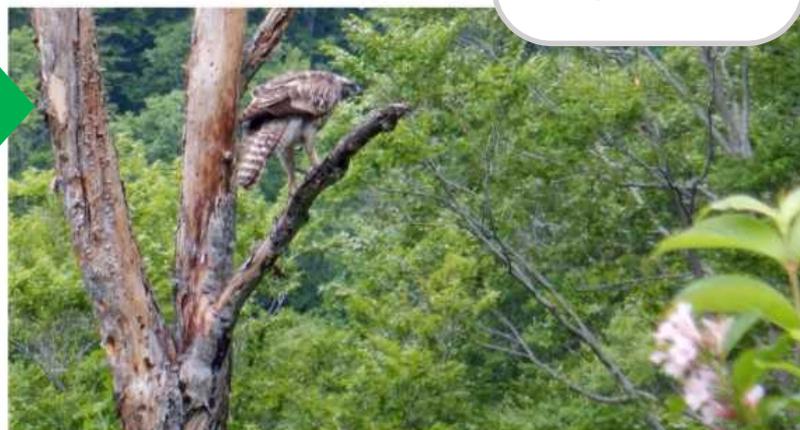
…例えば

▼前号タイトルのクマタカの写真



広報誌「白神通信」

HP 上では！！



No.89白神通信 タイトル背景：クマタカ 巡視中の車からコンパクトカメラにより撮影（山内）

藤里森林生態系保全センターの活動状況や、白神山地周辺の動植物の話等について情報発信しています。

▲切り取られていない全体写真と写真の裏話が！



（発行）林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター  
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3  
TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

